

# 11回コンサート第1部曲 懸命の音取り と曲作りが続く!

3月3日

□ 3月3日(金) 18:00~20:30 昂定例レッスンが開催されました。佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮で「忘れっぽい人に」「想像力」「君死にたまふことなかれ」を、休憩・連絡報告等をはさんで、伊藤さんの指揮で「降りつむ」「街を返せ」をレッスンしました。ピアノは西應静さん。参加者は全34名でした。



□ 「忘れっぽい人に」：今の段階では歌い手はこの曲は難しい。指揮をよく見て。(前半) 3連音符が一続きで出てくる。ことばをよく読んで正しいことばで。リズムとハーモニーを合わせよう。この曲はハーモニーが勝負。そして言葉で勝負。ことばで聴く人を驚かせる。お説教調で“しつっこい”と言われるかもしれないが、“私たちは言いたいのだ！”の気持ちで・・・約1時間余り、音取りとリズム・ハーモニー合わせに集中し最後まで歌い通しました。

□ 「君死にたまふことなかれ」は、この間、何度もレッスンに乗せてきています。各パートも“通し”で歌える段階に入ってきました。しかしまだ自分のパートを歌うのに精一杯、各自はついていくのに精一杯の様子。リズムの運びもまだまだ。まずレッスンでは指揮者の指

揮をよく見て音を合わせること(楽譜を見ながらでも)。遅れずに音を運んで！この曲は特にパートレッスンでしっかりやってほしい。



□「降りつむ」：内容の濃い曲。しっかりと思いを込めて、一人一人がイメージを心に浮かべて、ことばの表現に工夫をしよう！始めて歌う人は「音源」を何回も聴いて。小節を区切って聴いて歌っていくことを繰り返して覚えてほしい。

#### □連絡・報告事項

○「2017年日本のうたごえ全国協議会総会」に大阪の代議員として参加された山本さんから総会の報告がありました。114名の代議員が熱心な活動報告を行い、方針案の検討と議論がなされたこと、また山本さんは昇入団の経緯について報告したこと（「新入団員、うたごえの魅力、自分たちの歌が力になると確信したと発言した大阪・男声合唱団「昇」の山本さん」と「うたごえ新聞」2017年3月6日号に紹介）。同世代でありながらパワフルなうたごえの仲間に圧倒され、「うたごえ新聞拡大」で大阪の協議会のメンバーが岡邑会長や松島さんを先頭に表彰されたこと等、また今年のうたごえ祭典 in 石川・金沢に向けて頑張らねばの思いをしたことなど・・・

○故人の林さん・浅井さんの旧友・大阪市職労出身の永原真さんが昇を訪問されました。林さんからもらい受けた「フィンランディア」の楽譜で練習した曲をハーモニカで演奏されました。ねむかホールに「フィンランディア」の平和讃歌のメロディーが静かに力強く流れました。



昇 11回コンサートコーナー



## 男声合唱団 昇 団員・特別団員募集のご案内

梅の香と共に少しずつ春の訪れを感じる頃となりました。

皆様にはお元気でご活躍のことと思います。

さて私たち昇は別紙のとおり12月3日新築された豊中文化芸術センターにて第11回のコンサートを行います。昨年は10回コンサートをいずみホールで開催し、特別団員と共に「地底の歌」など歌い成功させてきました。何よりも大きな喜びはコンサート後に7名もの新入団員を迎えたことです。昨年は愛媛で初めて取り組まれた「日本のうたごえ祭典」のコンクールに新しい仲間と共に臨み銅賞をいただきました。新人の皆さんが昇の活動を通して平和のうたごえ運動を広げる喜びを感じながら生き生きと活動されていることに改めて「うたごえのすばらしさ、昇の活動の楽しさを誇りに思っています。今回のコンサートは特別団員と共に沖縄支援の歌をはじめ平和の道、「この道を行こうよ」と企画しました。私たちは一人でも多くの仲間と共にコンサートを取り組み生きる喜びを、歌う楽しさを、平和の大切さを広げていこうと思っています。

つきましては貴方もこのうたごえの和の中に入れていただきたいと心から呼びかけるものです。下記の通り練習しておりますので、お気軽に昇の門をたたいていただくようご案内いたします。

### 記

#### 昇団員

##### ○練習日

第1・第3・第5金曜日の18:00~20:30

第3・第5日曜日の14:00~17:00

##### ○練習会場

ねむかホール

##### ○団費

3000円



#### 特別団員

##### ○演奏曲

さとうきび畑

芭蕉布

労働者の合唱(歌劇沖縄より)

沖縄を返せ

##### ○練習日

7月から第1日曜日の15:00~17:00

11/19(通し練習)

##### ○練習会場

ねむかホール

##### ○団費

2000円(全日程)



#### 連絡先

「降りつむ」の2014年レッスンメモの記録が2つ残っていました。参考にしてください(編集子)

**「降りつむ」 フレージングを考え、アーティキュレーションを工夫して歌おう!  
(2014年8月1日のレッスンより・メモ書き)**

(「2014年日本のうたごえ祭典 in みやぎ」にむけてのレッスン記録より①)

出している声は何をうたっているのか聞き手にわからない！のでは困る！

言葉を引き出せ！

拍子やリズムや音程だけではない。歌詞や旋律を表現したい、ことばやフレーズをいかに表現するか？が大事だ。

音楽で大切なことはフレージングとアーティキュレーション！

音はまず出来たものとして（拍子やリズムや音程やメロディなど）、次に大事なのがフレージングとアーティキュレーション。アーティキュレーションを良くして言葉を表現する。音にする。自分でアーティキュレーションして、表現して曲を作らないと！

歌の表情にはまり込まないで、他人事のように歌うのは聴き手としては面白くない、この「降りつむ」の状況を分かって声を出そう！

（1945年終戦のあとの雪、泣き面に蜂のように降り積もる厳しい雪、一番困難なときにまた雪が降ってきた！・・・）

### 悲しみのくにに 雪がふりつむ

“悲しみのくにに 雪がふりつむ”

の初めの4小節は各パートの音が接近しているので、各パートは音を鮮明にして入らないとボヤーとした音になる。ハーモニーがぼやける。低音部は特に音程しっかり確保せよ。

“**かなしみのくにに**”の“か”は“気張って”か“と言わない。しかし、しっかりと”か“を言え。”あなしみ“と聞こえては駄目！

“かなしみ”を平板に一字ずつ連ねては駄目！

“**かなしみの**”“み”、“**くにに**”“は（p）、まだ小さく音を出すとしても、音を響かせろ、音を鳴らせ！

**最初の“ゆきがふりつむ”**は初めの出だしだから小さくてよい（p）。暗い表現でよい。“ふりつむ”の“む”の音ははっきり合わせる。合っていないよ！（BR）“ゆきが”の“ゆ”はしっかり発音する。“うき”ではだめ。

この出だしの4小節で各パートが音をそろえ、先が期待できる良きアーティキュレーションに表現しよう！

### 悲しみをかてとしていきよと

ゆきがふりつむー ふりつむー ふりつむー

かなしみをかてとして

“かなしみ”をいきなりクレッシェンドにしない、

“かてとして”をクレッシェンド、アーティキュレートして、

“かてとして”の“かて”は言葉として、はっきりと大事にして、“かて”

“いきーよとー”

強く”いきーよと“と言う。 ”とー“はディミヌエンド。

” ゆきーが “

Dim. (だんだん弱く) あまり大きく言わないが、はっきり言わないと揃わない。” が “は微濁音で引き気味に。” ゆきーが “は単音！きれいな音で！

“ふりつむ” “ふりつむ” “ふりつむ”

和音正しく！しっかり合わす！！

“む” の表現と声の出し方合わせて！

失いつくしたものの上に

雪がふりつむ

その山河の上に

その薄いシャツの上に

そのみなしごの乱れた髪の上に

四方の潮騒いよいよ高く

雪がふりつむ 雪がふりつむ

p = 80 で早くなる

うしないつくしたもののうえーに

m p だがしっかりした詞で歌う。やや激しく！

平板な表現は駄目！アーティキュレーションしよう！アクセントどこに置くか？

“うしない/つくした/もの-の-うえーに/と強調？

2 段目の “ゆきがふりつむ” はディミニユエントしない (だんだん弱くしない) で、“むー” をいっぱい延ばす。休みなしで、切らずに” その山河の上に “へ入る。

その山河の上に : 気持ちをしっかり持って、しっかりした音で

その薄いシャツの上に : 言葉揃えて、ぼらぼら！ (は聞き苦しい！)

そのみなしごの乱れた髪の上に : みなしごの “み” をしっかり出す。聞こえないよ！  
乱れた髪の上に : “みだれたかみの上に” をしっかりした音で出す。

四方の潮騒いよいよ高く

四方八方の潮騒 (潮が満ちてきて波が立ち騒ぐことの意) (日本のあちこちの海で高波が押し寄せてきて、すべてのものが虐げられている状態か？)

“よものしおさい” は言葉はっきりと！ “よも” “しおさい”

“いよいよたかく” も気持ちをいれて！

ゆきがふりつむー ゆきがふりつむー

最初の “ゆきはふりつむ” は豊かな音で！普通でない降り方、感情を入れた表現で！

次の “ゆきはふりつむ” は p (ピアノ) で小さめの音で、

夜も昼もなく 長い悲しみの 音楽のごとく

泣きさけびの声をしずめよと ゆきがふりつむ

ヒヨドリや狐の 巣にこもるごとく

悲しみにこもれと

地に強い草の葉の 冬を越すごとく

冬を越せよと 冬を越せよと—————その下から——

冬を越せよと 冬を越せよと—————

この部分のフレージングははっきりと表現しないと、歌として持たない（維持できない！）、聞き手にとって単調に聞こえておもしろくない。言いたいことをはっきりと言葉にして、何を歌っているのか、言っているのか？はっきりさせよう。歌詞が聞き取れないのでは困る。ずんべらぼうにならないこと。

“**よるも”**” **ひるも** “：はっきり” **よる** “” **ひる** “と言葉に出すこと。” おる “” いる “と聞こえる。

“**よるもひるもなく**”：音が落ちていく！ “よ” “ひ” を高めで合わす。

m f で少し興奮して表現してよし！

“**ながいかなしみのおんがくのごとく—**” をユニゾンで（リズム、音程、長さ等）しっかり合わせること

” **ヒヨドリや狐の巣にこもるごとく** “

“ヒヨドリ” はユニゾンだから、気張って声を出すと怒ったように聞こえる。丁寧にやさしい表現で、音程合わせて！

“**ひよどりや——きつねの——**” まで声を張って、一気に！声は一緒の調子で、ずっと腹筋で支えろ！

” **巣にこもるごとく——** “で、気を抜いた音は駄目！伸ばして声を維持しろ！支えきれず、音下がり気味！

” **かなしみに** “：” かなしみに” の “かな “しっかり出す！フォルテ（f）。トップ（テナー）が責任を持って声をそろえて” かなしみ “を出す。低音部も声をそろえて、ファルセットでよし！表現は” 本当に悲しいのだ！ “

“**地に強い草の葉の冬をこすごとく**”

音符に大きい、小さい、重い、軽い、を作ること。自分で感じて！ずんべらぼうな表現ではダメ。

“地に” ” 強い “” くさ “” 葉 “冬” とそれぞれのことばをはっきり言う。

” **冬をこすごとく——** “しっかり支えて、” く “の言葉ほったらかしにしない！音程下げずに、口の奥を空けたまま、こごもらないで、はっきり、きれいな” く—— “を

” **冬を越せよと “” 冬を越せよと “” 冬を越せよと—— “” その下から “**

なぜ3回も” 冬を越せよー！ “と言っているのか？

たたみかけるように、クレッシェンドで、

しかも最後の” 冬を越せよと—— “の” と—— “はフォルテ（f）。

なぜフォルテにしているのか？

怒ってよし！” 怒り “の気持ちを持って言ってよいと思うので、一気に盛り上げて！

そして低音部が“とー”を小さく、きれいな単音で奏でて、テナーの  
“その下からー”を引き出す。

“その下から”

が聴かせどころ。低音部大きくならないように”その下からー”が聞こえるように！

やがてよき春の立ちあがれと 雪ふりつむ  
無限にふかい空から しずかにしずかに

まず、テンポプリモ（初めのテンポに戻る 付点4部音符=60へ）

やがてよき春ーのー : もっと延ばす、明るく表現して！

たちあがれとー : 明るく！

ゆきーふりつむー : “ゆき”の音をきれいに合わせたら成功だ！この音合わせるのむつかしい！

バス”ゆきー”の“き”が低い！

“むげんにふかい空から”の表現はむつかしい！

バリトン：“むげんにふかい”の“む”はもう少し高めに！

バリトン：“そらから”の“ら”はきれいな“ら”を出せ！あらっほい！

“そらから”をきれいな音色にそろえて！

“しずかに しずかに”

合わない！

“しずかにしずかに”の2つの“ず”低くならないこと。

テナー：最初の“しずかにー”の“にー”と次の“しずかにー”の“し”（同じ音程）高さしっかり保って！

しずかにーしずかにー：“しず”の“ず”が強すぎるのは駄目！きれいな“ず”を、

本当に“しずかに”の表現を！最後の“しずかにー”の“にー”はユニゾン！合わせろ！

非情のやさしさをもって 雪がふりつむ  
悲しみの国に 雪がふりつむ

初め80で入って72で終わりなさい！ここから少し早くなる。

この10小節はユニゾン、音程等はやさしいが、それだけによけい感動的に演奏しよう！

「非情のやさしさ」とは？

その意味のとらえ方はいろいろあろうが、たとえば“それどころじゃない、傷つき、瀕死の状態、住むところもない焼野原、痛みつけられた、そんなすべてのものに”やさしさを！“

“ひじょうの”下からしゃくりあげるような声出すな！上から声を出す！“やさしさ”につなげるように、

”やさしさを“の”を”は助詞、あまり大きく歌わない、音程しっかりととって、大事に！

最後の“悲しみの国に 雪がふりつむ”

こここそ、アーティキュレーションの聞かせどころ。単一の音で。単調にならないこと。



ディミニユエンドに、テンポは72へ。

“かなしみのくくに”の：“のー” BR、BS、きれいなファルセットで！

“ゆきが”の “ ”が“は微濁音、音程（ソソレ）。

“ふりつむ”少しディミニユエンドしている。（だんだん弱く）

### 「降りつむ」（レッスンメモ1）

（2014年10月3日のレッスンより・メモ書き） 帛 479号 2014.10.6号

（「2014年日本のうたごえ祭典 in みやぎ」にむけてのレッスン記録より②）

#### 「かなしみのくくにーにゆきがふりつむ」:

イントロのテンポ合わせる！出だしの言葉「か」は集中力で準備して！音程合わせろ！“ソ・ミ・ド”はハモらないとダメ！

前奏のピアノを聴いて情景をイメージしろ！雪が深々と降っていることを想像して声を出せ。すべての言葉は口を縦に空けて！ここまでの4小節のフレーズで合否が決まるといってよい。

#### 「かなしみをかてとして 生きよと ゆきが・ふりつむ・・ ふりつむ・・ ふりつむ・・・」

「かなしみを」の「か」：前もって用意して上品な声で出せ！

雪はどこから降ってくるの？「ふりつむ ふりつむ ふりつむ・・」と3度も出てくる。「ふりつむ」の表現を変えよう！

ここままで一つの勝負だと考えよう！

（出だしを合わせる、音程を合わせる、想像力をたくましくして上品な声で言葉の一つ一つ、一語一語を口を縦にあけて豊かな表現で、）

#### 「失いつくしたもののう上にゆきがふりつむ・・・」

ユニゾンだよ！声をまとめて、口を横にしないで、縦に空けて！声を頭の上の方へ集める気持ちで！言葉をはっきりと！

「うしないつくしたもののうえーに」の「うえーに」：むつかしいが「えーに」横に気張った声にならないように！

「ゆきがふりつむー」：フレーズの最後の言葉の処理の上手い下手で上手な歌手かどうかが決まる。

「ふりつむー」最後まで口を縦にあけて、「むー」は少しクレッシェンドして<>（強弱をつける）。

#### 「その山河の上に・・/ その薄いシャツのうえに・・/ そのみなしごの乱れた髪の上に・・・/

#### 四方の潮騒いよいよ高く/ ゆきがふりつむ・・/ ゆきがふりつむ・・・」

それぞれのフレーズを色分けして表現する。イメージして、のんびんだらりと歌わずに、一つのフレーズごとに表現が異なる。気持ちも表現もたたみかけるように！

「薄いシャツのうえに・・」：「のう」と母音が2つ続く場合はそれぞれははっきりと出す。

「・・乱れた髪の上に・・」：テンポ合わない！乱れている！合わせて！

「いよいよ高く」：「高く」遅れないこと。8分音符で「たか」+「く・・」



「ゆきがふりつむ」:「ゆき」は「いゆき」くらいに言う。  
最後の「雪がふりつむ」は「雪が」から遅くするのではない!「ふりつむ」と「つむ」に入ってから遅くする。

「よるもひるもなく ながいかなしみの おんがくのごとく  
泣きさけびの声をしずめよと ゆきがふりつむ・  
ひよどりや きつねの 巣にこもるごとく  
かなしみにこもれと 地に強い草の葉の ふゆをこすごとく・・・」

このフレーズはユニゾン!

「よる」の「よ」の音程が低い、高めに。「よるもひるもなく」のひとことひとことを、口を縦にあけて

「なきさけびのこえ」の「な」、「こえ」の「こ」と「え」は散らばった声にしない。

「ひよどりや・・・」:やさしい声で、きばらない。汚い「やぁ・・・」は駄目。小さい声でよい。

「りや・・・」は「ひよど」から半音下がって「りや・・・」同じ音で響かす。下がりすぎるな!高めのところで保つこと。ファルセットの声で「やぁ・・・」としたほうがよい。

「きつねの・・・」「すにこもるごとく・・・」:「きつねの」「・・・ごとく・・・」はそれぞれ同じ音程!下らない!

最後まで音程下がらないように!

「ふゆをこせよと ふゆをこせよと そのしたから・・・」  
ふゆをこせよと ふゆをこせよと・・・お・・・お・・・・・・・・・・」

「ふ」はよく聞こえるようにはっきり出せ!

4度も「ふゆをこせよと」「ふゆをこせよと」と言う。気持ちも表現もたたみかけるように!初めの「ふゆをこせよと」はあわてないで、

最後のバリトンとバスの「ふゆをこせよとお・・・」口を開けて音を続ける。休まずに、「その下から・・・」を待つ。「とお・・・」の音が低い!「ラシ・・・」しっかり音を保て!

「そのしたから・・・」: p p(ピアニッシモ)小さいけれど、はっきりした言葉で表現せよ!表情豊かに!

「したから・・・」の「ら」は下がらないように!

この「そのしたから・・・」の6文字の言葉の響きがお客様への聞かせどころだ!

「やがてよき春の たちあがれと ゆきふりつむ  
無限にふかい空から しずかに しずかに・・・」

「やがてよき」の「や」はそれぞれのパートは自分の音をしっかりとって!音が合うように(ハモルように)、曲の最初の「かなしみのくになに・・・」の「か」と同じ音程。

ここに来て、「よき春よ!立ち上がるのだ!春が来た!!」と、このフレーズはイメージ豊かに、明るい声で!

「よき春の」:明るく!「たちあがれと」:ア行の発声、縦に!

「ゆきふりつむ」:和音合わせよう!

「そらから・・・」:テナーの音程正しく確保して!

「しずかに・・・しずかに・・・」(rit)(だんだん遅く)。

最後の「に・・・」合わせよう!きれいな「に」を!(縦の口で)

**「非情のやさしさをもって ゆきがふりつむ  
かなしみのくんに ゆきがふりつむ・・・」**

やさしい声で入る。最後の「ゆきがふりつむ・・・」の「む・・・」は最後まで出し切ること(音を切ってしまうわない)余韻を残して!

**(レッスンメモ2)「街を返せ」**

- ・「街をかえせ」と「村を返せ」:「街」の「ま」と「村」の「む」は同じ音程  
(「ミミミ ミレミ」「ミミミ ミレミ」)  
怒鳴るのではない!一つ一つの音を響かせよう!
- ・「返せ」というものは4つずつ、間違えずに、はっきりと!(間違えた言葉は目立つ!)  
「街」「村」「海」「風」  
「波」「魚(うお)」「恋」「日差し」  
「乾杯」「祖母」「誇り」「福島」
- ・4つの「返せ」はリズムしっかりと!だらだらと「返せ」ではない。はっきりとした言葉でリズムカルに!
- ・「チャイムの音 着信の音 投函の音」:それぞれの言葉をしっかりと、はっきりと!
- ・バリトンのハミング:最初は「レ・・・4拍」「bシ・・・4拍」「bシ・・・4拍」+「おと・・・」(bシbシミ・・・) 2回目「ファ・・・4拍」「ファ・・・4拍」「ファ・・・4拍」+「おと・・・」(レbファミ)  
音程確保!正しいハミングを!
- ・「波を返せ」で4つに分かれると途端に声が小さくなるのでは困る。各パートしっかり声を出して!
- ・「乾杯を返せ」・・・4つの返せと主張するもの、しっかりと表現する。各パートの音程確かに!出だしがバラバラでは困る!「乾杯」「祖母」「誇り」「福島」とピタッと合わせよう!